

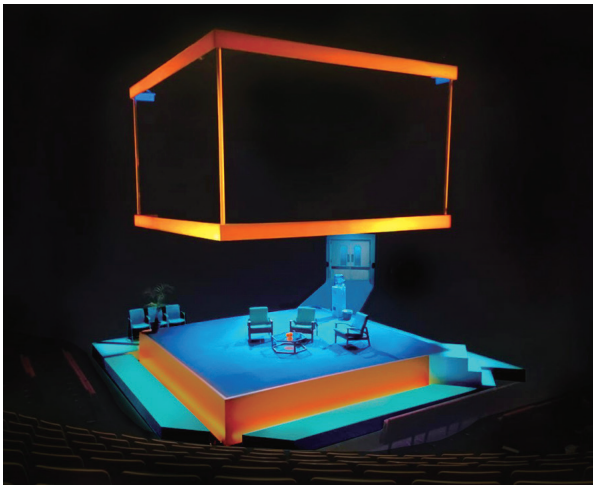
小野 あずさ

ブルー・オレンジ

今月は、バーミンガム・レパートリー・シアターのメインステージで、「ブルー・オレンジ」という演目の照明デザインをさせていただいております。精神病院を舞台にした、人間模様と人種差別を描いた作品で、精神病の患者（黒人主役1）と彼のカウンセラー（白人主役2）、そしてカウンセラーのボス（白人脇役1）の3人の葛藤を面白おかしく、かつ、現実的な人種差別の題材をダイレクトに突き出した作品です。アメリア・ハンキン氏の美しくもミニマリストな舞台美術は、カウンセラー部屋をボクシングリングに掛け合わせたかのような正方形の舞台になっています。その正方形を形取ったフレームがそのまま垂直に舞台真上に浮いているので、舞台はまるで、高層ビルの真ん中の1階に見えたりもします。この劇場のプロセアーチから、観客側に3－4m舞台を押し出した舞台美術、そして天井に浮かぶフレームとその中を浮上する蛍光灯（に見せかけたLEDライトボックス）セットの障害物が存在するため、地明かりを作るのに大変苦労しました。公演のほとんどは、ナチュラリスティック照明（現実感溢れる照明）なので、地明かりの完璧さが求められました（自分の中で）。蛍光灯の冷たく白い明かりの色温度は、地明かりにも使うべきなのですが、コメディー要素が多い公演なので、あえて少し暖かいL502を地明かりに使い、蛍光灯はほぼ飾りという感じで使いました。

精神病の患者の症状が明かされるシーンでは、みかん（オレンジ）が青く見えるという場面で、みかんをブルーに見せたかったのですが、青を当てても緑を当てても、完全なる青にできませんでした。どなたか、方法を知っている方がいらっしゃったら、教えてください。特殊塗料をみかんに塗らないと無理でしょうか…。結局、真逆のオレンジ色のL777を当てることで、彼の錯覚を強調することにしました。

テクニカルリハーサルが始まってから発覚した問題があります。主役2が、持病の光過敏性頭痛症があるそうで、ひたすら「低い位置からくる前明かりが眩しすぎて、目がクラクラするから、光量を下げてもらえませんか」と催促してくるのです。白人役者が二人なので、そのうちの一人だけ顔が暗いのは、デザイン的にありえません。でも、文句も言っていられないので、彼が新しいポジションに行くたびに前明かりの光量を落としたり、光の角度を変えたりしつつ、もう一方の役者の光量も落とすという作業が課せられました。そこで重宝したのは、Intensity Palletです。灯体と距離さえほぼ同じなら、いつでも適用できます。周りの照明の光量との兼ね合いもありますが、このIntensity Palletで、前明かりの打ち込みはとりあえず淡々と進みました。とはいえ、明かりが苦手な役者に会うのは初めてです。彼のために、サングラスを持ち込もうかと思ったくらいの敏感ぶりでした。どうして役者の道を選んだのだろう…。



プリショーの風景

苦難はそれだけではありませんでした。役者は立ちたい位置に、立ちたいときに立つという始末。いくら、一部屋のシーンですべてのアクションが起こるといっても、「我々照明デザイナーは、ただそのだだっ広いスペースをフラットに当てているわけではないんですよ。立ち位置に合わせて、あなたが動くたびにハイライトしているのですよ。」ということが全くわかっていないのです。終いには、演出家が「もうちょっと照明で質感を出せないかな。」と聞いてくるので、上の言葉を丁寧に伝えました。せめてテクニカルリハーサルが始まるまでに、大体の立ち位置は決めてもらいたかったのですが、すべてのシーンが立ち位置不明の状況は、流石に困りました。愚痴ばかりですみません。案の定、舞台上はすべて明るく、フラットに見えてしまって、恥ずかしくて舞台を見てはいられません。明後日がプレスナイトに迫っています。なんとかして、立ち位置を定めてもらい、限られた時間内で、どこまで必要ない照明を落としていけるかが勝負です。

とにかく、このプロダクションで救われた面は、素晴らしいプログラマーが私をサポートしてくれていることです。プログラマー、アレックス・ボウチャー（使用卓はETC Gio）は、瞬時にチャンネルとグループナンバーを覚え、私が演出家や舞台監督とキッカケを話している間に、私の台本を見ながら、新たなキューナンバーとラベルを描き始め、作成積みのIntensity Palletをキューに打ち込んでくれます（もちろん、指示は出しますが、コピペはもうお任せです）。プログラマーによって、Blockの使い方が違うのが興味深いです。アレックスは普通のBlockより、Intensity Blockを使うことを好みますが、私のフラットメートのプログラマーは普通のBlockを好みます。ムービングを26台使っているので、Focus PalletとTrackingはもちろん使います。でもIntensity Blockを使った場合、一台一台、どこで何に使ったか覚えていないと、トラッキングしたとき、次のシーンでとんでもないところに明かりがついたりするので、個人的に私は、普通のblockのほうがいいのでは？と思います。Intensity Blockの上手な使い方とメリットを来週、落ち着いてからアレックスに聞きたいと思います。